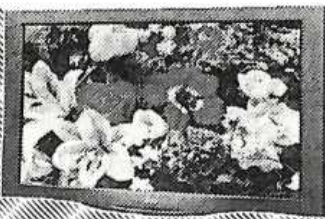


富士通が製品化する42型カラープラズマディスプレイ



富士通は二十四日、壁掛けテレビを実現する大型の薄型表示装置、42型カラープラズマディスプレイパネル(PDP)を九六年十月から量産化する、と正式発表した。二〇〇〇年までの五年間に六百億円を投資し、42型パネル換算で月間十万台の生産体制を構築する。壁掛けテレビ用の大画面の薄型表示装置はマルチメディア時代に向けた電機業界最大の成長商品と期待され、既にNECと松下電器産業も大型投資を決め、ソニーは別方式で参入を表明した。PDP分野で最有力とみられる富士通は、正式発表によって量産競争の火ぶたを切った形だ。

42型プラズマ方式 壁掛けTV

富士通、来年10月量産

2000年めど月産10万枚

＜ディスプレイの特性比較＞

- ▼大画面化
 - PDPは大型ほど生産効率が高い
 - LCDは対角20インチ程度まで
 - ▼省スペース
 - PDP、PALC、LCDは10インチ以下に薄型化できる
 - ブラウン管は40インチの場合、重量100kgまで巨大化する
 - ▼画像の見やすさ
 - LCD、PALCは鮮明だが、視野角が80度程度と狭い
 - PDPは視野角180度程度、鮮明さではやや劣る
 - ▼消費電力
 - PDPは平均200W台、ピーク時は300Wと大きい
 - LCD、PALCは100W以下にとどまる
- (注)PDP(プラズマディスプレイパネル)
LCD(液晶表示装置)
PALC(プラズマアドレス液晶)

量産する42型のカラーPDPは、画面が横九百二十センチ、縦五百十八センチの横縦比十六対九のワイド型。厚さは七十五センチ、重さは十八キロとブラウン管タイプの六分の一で済む。九八年までは、より大型の55型製品の生産にも着手する方針。グループ会社の富士通セラミックのほか、国内外の家電システムメーカーに販売していく。

カラーPDPの新工場は子会社九州富士通エレクトロニクス(鹿児島県入来町、宮田澤社長)と松下電器産業がPDPで、ソニーがプラズマアドレス液晶

を生み出す可能性(常務)。富士通製品で重きを秘めている。八センチブラウン管の六分の一に重くて扱いに過ぎないからだ。

「壁掛け」に計り知れない。単にハイビジョン発させたといふ。従来の「テレビやモニター」事みと重さ。富士通に見られるだけではない。大画面業の延長線上だが、その先を見

「セット価格50万円」実現カギ

「ウィンドウス95」で時の人となった米マイクロソフト社のビル・ゲイツ会長は、シアトル郊外の自宅の壁の随所に薄型ディスプレイを掛け、好きな絵画などを表示して楽しんでいるという。プラズマディスプレイパネル(PDP)を使った「壁掛けテレビ」は、画像と人間の新しい関係を「使えば良い」(中村末広・ソニー)。

通の42型PDPは厚さ七十五センチ、重さは約九十キロ、縦横比十六対九のワイド型。厚さは七十五センチ、重さは十八キロとブラウン管タイプの六分の一で済む。九八年までは、より大型の55型製品の生産にも着手する方針。グループ会社の富士通セラミックのほか、国内外の家電システムメーカーに販売していく。

「壁掛け」に計り知れない。単にハイビジョン発させたといふ。従来の「テレビやモニター」事みと重さ。富士通に見られるだけではない。大画面業の延長線上だが、その先を見

応用効く用途には魅力

成り立つかも知れない。問題は価格。富士通では普及の条件を「壁掛けテレビのセットとして五十万円以下の価格の表現(田中益雄・富士通常務)」と言ふ。カラーPDPの場合、九六年後半の量産化当初の価格が五十万円程度ならば、テレビの受信回路などを加えたセット価格は七十万円程度になると推定される。また高過ぎる「二十万円強」の分を、九八年までにどうコストダウンするか。

使いこなしのアイデアは幾らでも浮かびそうだ。しかし、まずコストの壁を突破できる会社だけが、五年後に六千億円という「壁掛けテレビ」市場争いに加われる。

Business Trends